

0520

美術解剖学

2 単位（通信授業 2 単位）

伊藤恵夫講師、平晃子講師

授業の概要と目標

美術解剖学では、ヒトや他の動物の体の中にある骨格や筋肉について学ぶ。体の内部構造に関する知識は、体表に現れるレリーフを意味のある「かたち」として認識するための助けとなる。ただアウトラインを追うだけの観察ではなく、立体としての形態やバランスを把握する力を養成する。また、実際に造形作品を作成する際に、何を表現し何を省くかを、自分で選択できる目を養うことを目標とする。

課題の概要

○通信授業課題 1

「四肢の骨格を意識して動物の全身を描く」

動物園などに行き、四肢（まえあし、うしろあし）の骨格を意識して、動物の全身像をスケッチする。哺乳類を 2 種以上（ただし、霊長類“サルの仲間”を除く）、鳥類を 1 種以上。それぞれの動物の肩、肘、手くび、膝、かかとの位置を示すこと。提出は B 4 サイズ、3～6 枚。動物の名前も明記すること。課題解説をよく読むこと。

○通信授業課題 2

「人物画または人物彫刻のポーズで骨格図・筋肉図を描く」

造形作品（絵画または彫刻：全身像とする）を 1 点選び、トレースした図 2 枚に骨格および筋肉を描き込む。課題解説をよく読んで作品を選ぶこと。使用した図版（コピー）1 枚、骨格図 1 枚、筋肉図 1 枚。B 4 サイズに統一して提出する。

*課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

- ・美術解剖学を学ぶにあたって
- ・骨格について
- ・筋肉について
- ・プロポジション

成績評価の方法

◎科目試験

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

教材等

教科書：ルイーゼ・ゴードン『人体解剖と描写法』上昭二訳（ダヴィッド社 1982 年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）

その他

参考文献：桜木晃彦『自分の骨のこと知ってますか』（講談社 2001 年）

アーネスト・T・シートン『美術のためのシートン動物解剖図』（マール社 1997 年）

Fritz Schider “An Atlas of Anatomy for Artists” (Dover, 1957)

Paul Richer, Rovert B. Hale(ed.) “Artistic Anatomy” (Watson-Guptill, 1971)

W. Ellenberger, H. Dittrich, H. Baum “An Atlas of Animal Anatomy for Artists” (Dover, 1956)